

第2章 湖南省永州市藍山県過山系ヤオ族(ミエン)の概況

ヤオ族は、現在中国に居住する55の少数民族の中の一つである。中国では瑶族(ヤオ)、タイとラオスではヤオ(Yao)、ベトナムではザオ(Dao)と呼ばれている[吉野 2005:3]。「瑶族」という族称は、1950年代の初期に中国政府によって作出され、それ以前には歴史上では、「南蛮」・「徭」・「猺」などと呼ばれていたが、中国建国後に、「徭」・「猺」に代えて同音異字の美しい玉を意味する「瑤」字が採用された。

吉野晃は、「中国のヤオの話す言語はミャオ・ヤオ諸語のヤオ語群に属するミエン語(自称ミエン mjen, ムン mun など)、ミャオ・ヤオ諸語のミャオ語群に属するプヌ語(自称プヌ pu nu など)、タイ・カダイ語族に属するラッキャ語(自称ラッキャ lak kja など)などであるが、広西・湖南の一部では漢語を話している(自称ユー・ンギエン jujjen など)。すなわち、中国では、言語的に異なる諸集団が『瑶族』の名称の許に纏められているのである。その半数以上の人口がミエン諸語に属する言語を話している」と述べる[吉野 2005:3]。また張勁松らは、湖南省永州市藍山県に居住するヤオ族は、「ユーミエンあるいはミエンを自称し、他称は過山瑤・東山瑤・西山瑤と呼ばれる。日常用語としてミエン語を話すが、漢語も話せる」と言っている[張勁松ほか 2002:1]。

本章では、本研究の主なる調査対象地である湖南省永州市藍山県のミエンの人口・分布、自然環境・生業、年中行事・宗教信仰について述べる。

第1節 人口・分布

2000年11月に実施された「中国第5回人口センサス」によると、ヤオ族の総人口は263万7421人[国家统计局人口和社会科技統計司ほか 2003:2-3]、中国に居住する55の少数民族の中で第12位に位置づけられる。また、省別では、湖南省70万4564人、広東省20万2667人、広西壮族自治区147万1946人、貴州省4万4392人、雲南省19万610人となる[国家统计局人口和社会科技統計司ほか 2003:80-81]。

ヤオ族は山地民族であり、主に海拔1000メートル前後の山林に分散して居住しているが、その中の一部は河谷や丘陵地帯にも暮らしている。東は広東省の南雄、西は雲南省の勐蠟まで、北は湖南省の辰溪、南は広西壮族自治区の東興に至る1000平方キロメートルの山地に広く分布している[『瑶族簡史』編写組ほか 2008:1-2]。分布上に、「大分散、小聚居」という特徴が現れており、主に広西壮族自治区の都安・富川・巴馬・防城・龍勝・南丹・全州などの47県、湖南省の江華・寧遠・藍山・新寧・隆回などの22県、雲南省の河口・金平・屏辺・易武・勐蠟・麻栗坡・広南・富寧などの17県、広東省の連南・乳源・連県・曲江・連山等の11県、貴州省

第2章 湖南省永州市藍山県過山系ヤオ族(ミエン)の概況

の荔波・黎平・從江・榕江などの6県に集中して居住しているとされる[劉耀荃ほか1988:10-36]。

湖南省のヤオ族は、主として西南部にかけての広西壮族自治区と広東省との境を接する地帯の山間部に広く分布している。湖南省南部に位置する永州市江華瑶族自治县は、中国全土においてヤオ族の人口が最も多い瑶族自治县である。また本研究の主なる調査地である藍山県でのヤオ族総人口は1万7608人となり[国家统计局人口和社会科技統計司ほか2003:818]、永州市においてヤオ族人口の第3位に位置づけられる。

藍山県のヤオ族は、明・洪武初年間に、両広(広東と広西)・江華・桂東・寧遠などの地域から、続々と県内に移住し、清末期まで長らく東山・西山・大源・小源の四つの山岳地帯に集住してきた。後に一部の人は、山地から平地へ移住し、土地を賃借りして生計を立てた。また、1952年に、藍山県人民政府は、ヤオ族の人々を土地改革運動¹に参加させるため、平地へ移動させようとした。こうした様々な原因で、もともと山地に居住していたヤオ族の一部が、平地あるいは山と平地が境を接するところに定住するようになった。80年代初期に至り、県内ヤオ族の分布の状況に従い、県政府は東山・西山・大源・小源の四つの地域で荊竹・紫良・大橋・匯源・犁頭・漿洞の六つの瑶族郷を作った。[藍山県志編纂委員会1995:677-679]

第2節 自然環境・生業

湖南省永州市藍山県は、湖南省の南部に連なる南嶺山脈²中腹の北側に位置する。東に臨武県、南に江華瑶族自治县と広東省連県、西に寧遠県、北に嘉禾県が隣接し、湖南省から広東省に通じる重要な地域である。南から北に傾斜し、両側の山脈が高く突き出て中部が凹む地形となっている。総面積は1810.14km²である。県内には主に山地であり、標高は最高1825.7m、最低は188mである。亜熱帯気候に属し、穏やかで十分な雨量があり、四季が明瞭に区別され、無霜期間は290日、降雨量は1527mm、年間の平均気温は17.8℃である。[藍山県志編纂委員会1995:1-2]

藍山県は、動物や植物などの資源が非常に豊富であり、杉や楠竹などの木材、椎茸、木耳、香草、葉草などの特産品も豊富に産出し、集落の周辺には竹や常緑樹などが交じり合うようにして生えており、自然景観に富む。自己消費作物としてトウモロコシ、稲、薩摩芋、里芋、粟などを栽培し、換金する資源としては瑶族の集落によって異なるが、主に木材が共通している。

匯源瑶族郷は県内の木材生産の基地であり、藍山県西部の峻嶮な山岳地帯に位置する。海拔は1304mあり、総面積は50.1km²である。換金物として、杉、ハトムギ、金桔などを栽培している。匯源瑶族郷湘蘭村の村人によれば、杉を商品として出荷できるまでには、少なくとも十数年かかるという。よって、林木を育てながら広東省の広州市や仏山市などの都市部へ出稼ぎに出る人が多い。特に若者のほとんどが都会へ出稼ぎに出ているという。犁頭瑶族郷は、藍山県



〈図3〉 湖南省における藍山県の位置図³

の西部の山間部に位置し、主に木材と桐の油を産出する。漿洞瑶族郷は、藍山県東南部の山岳地帯にあり、最高海拔は1400mもある。換金物として、木炭、蜂蜜、薬草、楠竹、筍などを栽培・生産している。紫良瑶族郷は、藍山県の西南部にあり、椎茸、木材、松脂、水晶石、花崗岩などを産出する。中でも椎茸が最も有名であり、国内外に知られている。紫良瑶族郷には藍山県で最も標高の高い山がある。「三分石」、「高炉石」、「金鷄嶺」の三つの山の平均海拔は1780mあり、「高炉石」の西南部の峰は1825.71mあり、県内で一番高い。荊竹瑶族郷は、藍山県の西南部に位置する。主に木材、椎茸、薬草を栽培するが、水晶石などの鉱石も産出する。[藍山県志編纂委員会 1995: 43-48]

第3節 年中行事・宗教文化

藍山県のミエンは、二十四節気に従って農業生産を行い、旧暦を使用して様々な行事や祭祀

第2章 湖南省永州市藍山県過山系ヤオ族(ミエン)の概況

活動が執り行われている。これらの行事の中には、年末年始に行われる祖先を祭る行事があり、またそれと関わりがある清明節・敬神節・試新節・盤王節などの日もある。その他には、禁風・禁老鼠・禁水・禁野猪・禁秋などの禁忌の日もある。本節で述べる年中行事に関する事例は、主に『藍山県志』[1995]、『藍山県瑶族伝統文化田野調査』[張勁松ほか 2002: 1-18]、「ヤオ族春節調査」[廣田 2013d: 133-136]、「藍山県ヤオ族の年中行事」[李利 2014: 131-136]を参照した上で作成したものである。なお、以下の各種の年中行事などは全て旧暦で行われる。

まず、年末年始に行われる主な行事を紹介する。藍山県のミエンの正月は1日の春節から15日の「元宵節」まで続く。春節は年間最大の行事であるという[李 2014: 131]。匯源瑶族郷湘蘭村の春節行事に関する調査によると、1日の朝5時半頃に、家主がいつもより早く起き、先祖と三廟の祭壇に線香を立て、酒・灯明・豚の脂身を供える。また竈と戸口に線香を立て、酒を供える。続いてこれらの箇所、紙銭を燃やしながら唱えごとをし、外の金銀財宝が我が家にやって来るように、五穀が豊穰になるように、祈願する。先祖と三廟の祭壇に、吉方から摘み取ってきた「金花宝朶」という葉が付いている枝の先端を供える。先祖と三廟の祭壇及び戸の框の上方の横木に「門関紙」という切り紙を貼付ける。2日から4日まで、先祖と三廟の祭壇・竈・戸口に線香・紙銭・茶のみを供えるが、唱えごとはしない[廣田 2013d: 133]。門関紙は15日の元宵節の際に剥がす[廣田 2013d: 134]。また、春節に香龍⁴を舞う習慣もあり、藁と竹で作った香龍を舞いながら、家々を回り、新年の挨拶として龍を舞う腕比べをする。しかし、近年香龍を舞うことができる人が少なくなり行われない年もある。

年末の行事は主に12月の月末に行われる。24日は「過小年」の日であり、当日に祖先を含む様々な神々に対する祭祀が行われる。祖先の祭壇に線香・酒・水・豆腐・豚肉・紅蠟燭・紙銭・灯明を供え、祖先を祭る。門の内側には線香・酒・紙銭・灯明を供え、「把門將軍」を祭る。門の外の丁字路あるいは十字路に「土地公公」「七星姊妹」「一二四位夜鬼」「六郎廟王」を祭り、また、25日から30日までの間に神棚や墓などを修繕する[李 2014: 134]。

年末年始に行われる行事の他には、清明節において墓参りし祖先祭祀を行う。6月6日の試新節には、初めての収穫を祝い、地蔵菩薩や家の神などを祭る。敬神節では、「包紅包」という重要な行事が行われ、数人の祭司を家まで招き、紅包を作り、日没後から家の祭壇で行事を行う[李 2014: 133]。10月16日の盤王節は、ヤオ族にとって最大の行事であり、各地において集団で先祖の盤王を祭る。藍山県に隣接する江華瑶族自治县では、近年、毎年3日間ぐらいの盛大なイベントを開催するが、藍山県では盤王節を行わない。

禁忌の日は主に1月と2月中に集中しており、行事の内容様々であるが、主に日常の農業生産活動と大きく関わる。1月6日・16日・26日は「禁老鼠」の日であり、倉を開けては行けない[李 2014: 135]。1日の10日・20日・30日は「禁風」の日で、雷を驚かせ騒がせないため、当日は物音を立ててはならず、老若男女は炉に当たって暖まりながら静かに一日を過ごす[張ほ

第2章 湖南省永州市藍山県過山系ヤオ族(ミエン)の概況

か2002:16]。2月1日は「禁鳥」の日であり、鳥の口先を象徴する竹の枝に、餅米で作った「ババ」を挿し、作物が害鳥に食べられないように祈る[張ほか2002:16]。2月2日は、作物の苗を食べる「地虫」という害虫を禁ずる「禁地虫」の日である。2月3日は「禁水」の日であり、洪水によって畑を破壊させないため、畑に出ないという[張ほか2002:16]。2月4日は「禁野猪」の日で、作物を猪に荒らされないよう、山中に入らず農作業も行わない[張ほか2002:16; 李2014:9]。2月5日は「禁蝗虫」の日で、トウモロコシを蝗に食われないように、当日は畑に出ず、山の神を祭る[張2002:16]。2月6日は「禁金蜂」の日で、山の神に薩摩芋の葉を食べる「金蜂」を放さないように願う。

藍山県のミエンは、元始天尊・道德天尊・靈寶天尊・玉皇・聖主・張天師・李天師・天府・地府・陽間・水府・十殿・太尉・唐葛周三將軍・監齋大王などの様々な神を信仰し、家先(家の先祖)及び始祖の盤王を祭る。母屋の正面の壁の左側あるいは右側には、必ず家先を祭る家先壇を設置する。家先に対して誠意をこめて、朝飯と夕飯の前に線香や酒を供える。壁の中央は盤王を祭る場所であるが、祭壇は設置しない。祭司の趙金付氏によると、盤王は彼らの心の中におり、彼らが住んでいる家は盤王の家であり、盤王は自由に出入りしているため常設の祭壇は必要ないという。

藍山県のミエンは、様々な儀礼を伝承している。出産に関する儀礼は、分娩を促進する「催生符」を作る儀礼や、難産の場合の「剖腹符」を作る儀礼などがある[張2002:10-11]。2010年8月に廣田律子は藍山県湘蘭村で調査した際に、趙金付氏に依頼し、筆者のために安産の符を作ってもらった。そのお陰で8月28日に無事元気な女の子が生まれた。他には病気治しのために行われる架橋儀礼、年中行事として行われる送船儀礼もある。このような儀礼には基本的に神画を使わない。

日頃行われる儀礼の他には、藍山県のミエンは「掛三灯」「還家願」「度戒」などの儀礼を伝承している。張勁松ら[2002]や廣田律子[2013a]などの研究者及び神奈川大学ヤオ族文化研究所の成果報告[2009;2010;2011;2013]によると、1980年代から、藍山県の紫良瑤族郷・匯源瑤族郷・所城鎮など地域で「還盤王願」「還家願」「度戒」「道場」などの儀礼が行われたとする。藍山県のミエンの男子は、家を継承する資格を獲得し、法名を代々の祖先が連記される「家先牌」という家譜に加えられるために、「掛三灯」儀礼を経て法名をもらう[廣田2011a:335]。丸山宏の聞き書きによると、「法名は度戒儀礼に限らず、結婚や還願儀礼の時などにも得ることができる」とする[丸山2010b]。法名は三清(元始天尊・靈寶天尊・道德天尊)の承認が必要である。ミエンは、法名を獲得すると、陰兵(あの世の将兵)の加護を受けられ、自らを守り、他人を救うことができると考えている。

こうした藍山県のミエンは、行事や宗教儀礼などの信仰の面において独自のアイデンティティを所持し続けていると考えられる。

第2章 湖南省永州市藍山県過山系ヤオ族(ミエン)の概況

[注]

¹ 1950年から1953年にかけて行われた全国的な土地改革運動である。中国建国前に、地主階級が持っていた土地を農民に分けて所有させる制度である。

² 広東省と広西壮族自治区、江西省と湖南省の境を東西に走る山脈の通称である。揚子江と粵江へ流入する諸河川の分水嶺であり、華中と華南に分ける。騎田、越城などの諸嶺があり、標高は平均1000m前後である。

³ 百度地図に地名を加えて作成したものである。<http://map.baidu.com/>

⁴ 香龍に関して、三村宜敬は「湖南省永州市藍山県過山系ヤオ族の送船儀礼」の中で、藍山県で行われた送船儀礼に使われる香龍の製作について報告している[三村ほか 2012:225]。祭司の趙金付氏は、春節に舞う香龍と送船儀礼の際に使う香龍はほとんど同じものであるという。